

JAFSA 研修プログラム(過去の実施例)

「国際教育交流初任者コース(受入れ)Ⅱ～アドバイジング・カウンセリングを中心に～」

2007年12月13日～15日 (於 東北大学青葉山キャンパス 青葉記念会館)

～講義風景～



私は、学生と接することがほとんどない部署から、新設の国際交流センターに異動したため、学生に対応する際の適切な距離がなかなかつかめず、どうしたら良いのだろうかと考えていた。そんな時に、アドバイジングについて学ぶことができる研修があると知り、ぜひ参加したいと上司に希望を出し、念願かなって今回参加することになった。

今回の研修は、参加者が16名と少人数だったため、参加者同士が打ち解けるのも早く、懇親会以外の休憩時間や移動中などにも、色々な話をするのができたことはとても有意義であった。

今回の講義で特に印象的だったのは、公園デビューがうまくできなかった外国人の奥さんについてのディスカッションをしていた際に、その時の気持ちは？という質問に、ほとんどの方が悲しいと答え、意見がまとまりかけた時の「感情を勝手に先読みしないこと。この人は悲しいというレベルを乗り越えて、怒りを感じているかもしれない。そんな時に悲しいと言われたら、余計に怒りを感じるかもしれない。」という講師の先生からのアドバイスだった。

また、「対応する時には本当にその対応をして良いのか、もう1度よく考えることが必要。むしろ何もしない方が良いこともある。」というアドバイスも印象に残った。

自分のこれまでの対応を振り返り、相手を理解しようと思いつつも、自分の想像の範囲内で対応していたのではないかと、できるだけ早く、何かしなくてはいけないという気持ちが先に立ち、慎重さを欠いた行動をとってしまうと、こちらの助けたい気持ちとは裏腹に相手を傷つけてしまう可能性があることを、常に意識して学生に接しなければならないと思った。

質疑応答&ディスカッションの時間には、参加者が直面している問題について、講師の先生方からアドバイスがあり、私も学生への対応で不安に思っていることを相談したところ、自分では気づかなかった良い点や今後の対応で注意することを教えていただき、不安を解消することができた。

研修期間は、ちょうど仙台の有名なイベントのひとつである「光のページェント」の開催時期であったため、2日連続でイルミネーションを見に行き、予想以上の美しさに感激した。

東北大学の先生方には、懇親会を2日連続でセッティングしていただき、他の参加者の方達と楽しい時間を過ごすことができた。懇親会以外にも休憩時間の茶菓の準備や仙台の美味しいお店情報の提供など、先生方

の細やかなお心遣いにととも感謝しています。ありがとうございました。

閉会の際に、中島先生から「留学生にとって一番良いと思うことをすること。例え、うまくいかないことがあっても、決して自分を責めないこと」というメッセージをいただき、相手に対して誠実であろうとすることはとても大事であるが、自分自身を守ることも同じように大切にしなければと感じた。

今回の研修では、国際交流担当者に限らず、教職員全体で意識すべきことをたくさん学ぶことができた。よりよいアドバイジングができるようこれからも努力していきたいと思う。

報告者: 神小柴 みき氏(東京家政学院大学)

スケジュール:

2007年12月13日(木)	
13:30~14:00	受付
14:00~14:30	開会式
14:45~16:15	講義Ⅰ「国際教育交流の理念と戦略」
16:30~17:30	講義Ⅱ「受入れの実務ー受入れ業務全般について」
17:30~18:00	工学部国際交流室見学等
18:00~20:00	情報交換会

2007年12月14日(金)	
9:30~11:00	講義Ⅲ「留学生相談の基礎知識と心構え」
11:15~12:45	講義Ⅳ「事例で考える異文化コンフリクト -異文化コミュニケーションと異文化適応の視点から-
12:45~13:45	昼食
13:45~15:00	質疑応答&ディスカッション
15:15~16:45	講義Ⅴ「アドバイジングとカウンセリングの違い」
16:45~18:00	質疑応答&ディスカッション

2007年12月15日(土)	
9:00~10:00	講義Ⅵ「各大学事例紹介(アドバイジング・危機管理体制等)」
10:15~11:30	フリーディスカッション Q&A
11:30~12:00	閉会式